

自動車用シート布開発

私の出身地はトヨタグループのお隣元であり、関連企業がひしめく地域だ。おかげでバブル崩壊直後の就職難にもかかわらず、地元グループ会社に入社でき、自動車用シートファブリック(布)の開発・生産準備を担当した。

時間とコストの制約の中、意匠と性能を両立させながら競合他社と受注競争していた。失注すれば苦労は水の泡。受注しても原価低減、性能や品質が安定する設計を量産開始までに整えなければならず厳しかった。

凛としていきる

理系女性の挑戦

一つひとつ問題を解決



触感のよい極細繊維

約20分の1になる。使用したファブリックの開発は忘れられない。合成繊維の太さは髪の毛の約10分の1が限界だが、特殊な構造の極細繊維はアルカリ処理をすると髪の毛の

約20分の1になる。当時、極細繊維は人革に使用されていたが、シートファブリック向けに採用した。繊維が細いと色落ちしやすく非常に繊細で染色ムラが起きやすい。

問題が山積みで加工メーカーさんの協力を得ながら連日連夜、試行錯誤を重ねた。何とかが解決すると普及が起ころ繰り返して試作品の

反物が山となり、解決のめどが立たず途方にくれた。それでも社内の全関係者がごめん付き合っ下さったおかげで詳細な加工条件や作業・管理要領を作りこみ、何とか解決できた。

5年前に車室空間企画部に異動し、車室内全体の魅力向上に取り組んでいる。最近では自運動転などの将来動向を探っている。

何が解決すると普及が起ころ繰り返して試作品の車室空間企画部のメンバーと(前列中央が古田さん)

解決に至った決定打などない。一つひとつ問題をつぶし続けた結果、成立条件にたどり着いたただけだ。むしろ驚いたのは量産開始後、予想外に不良率が低かったことで、加工メーカーさんからお礼を言われ感極まった。結局、苦しくても一つ

ずつ問題を解決する事が良い結果を生むこと、品質を安定させる重要性を思い知らされた。その加工メーカーさんとは現在も付き合いがある。

して何をやっていくのか。数年後何を得意にするだろう...まさに試行錯誤だがチームでチャレンジだ。企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWF) (火曜日掲載)



トヨタ紡織 車室空間企画部長 古田 雅子

プロフィール 93年 奈良女子大学政卒、同年豊田紡織入社。12年 車室空間企画室へ異動、16年より現職。